第６章　勉強をサポートする方法

いよいよ僕の「教育論」も最終章を迎える。僕が今回この「教育論」で生徒達や、その他の子ども達に伝えたかったのは「勉強とは何か」「何のために勉強するのか」「どうやって勉強するのか」ということだ。だから「どうやって勉強を教えるか」というのは本来この本の目指すところではない。だけど、人は誰しも学んだ事を誰かに伝えながら、それを深めていく。伝達するためには自分自身がちゃんと分かっていなくてはできないから、教えると言うのはものすごく勉強になる。その証拠に先生の世界には「教える事が最大の勉強」と言う格言がある。だから僕は最後に君に「勉強の教え方」を教えよう。ここでは君が先生になって、親になって、誰かに学んだ事を教えるつもりになって話を聞いてもらいたい。

きっといつの日か、君に教えを請う人が現れる。例えば君が親になって、子どもに何かを教える時が来る。例えば君に後輩ができて、君の教えを請う時が来る。例えば君が人生の大半を終えた時、君の生き様を後世の人がきっと聞きに来るだろう。そんな時ちょっとでも生かして、「教えて」くれたらいいな。そうやって人類の勉強は蓄積されていくから。君と言う一人の人間の生きた証もその中にちゃんと刻まれる。そのためにも誰もが人に「教えて」いかなければならないんだ。

わかったかな?さぁ最後の授業を始めよう!

1．子どもを育てる方法

子どもを育てるのは簡単なことではない。第3章で説明したように子どもは何もできない。何も出来ないから大人が一つ一つサポートしていく。前回はサポートされながら生き方を学習していくと言う子ども目線で話をしたが、今回はそれをサポートする側、大人の方にスポットライトを当ててみよう。

子どもを育てるのに一番大事なのは「守ること」と「鍛えること」だ。これって一見すると反対の要素なんだけど、それを同時にやらなければならないからすごく難しい。(泣)

子どもはまだ弱い存在だから、危険から守ってあげなければならない。夏の暑い日差しの中、車の中に子どもを放置したら死んでしまう。車の往来が激しい道路で子どもから目を離せば、子どもはひかれて死んでしまう。そういった死への危険から子どもを守るのは親である大人の仕事だ。

でも、守っているだけでは子どもはいつまで経っても自分では何も出来ない。そこで「鍛

える」事が必要になっていく。危険の少ない家の中で自由に動き回る練習をした幼児は、やがて家の周りを自由に行き来するようになる。そして小学校に入れば学区内を、高校生にもなれば電車に乗って遠い所まで行ける様になる。「可愛い子には旅をさせろ」と言うことわざがあるように、適切な時期に、適切な訓練をして鍛えることが、教育にとってはとても大事な要素なんだ。

ではどうやってその時期や訓練を見極めたらいいのか、それが問題になる。育児本やパソコンの掲示板を見て情報収集する人もいる。でも実はこれは自分自身が勉強するときと全く同じやり方でいいんだ。つまり、その子にとって、今何が出来て、何が出来そうなのか、近くでみている人がちゃんとわかってあげる事。そうすれば何を訓練してあげたらいいかは自然に見えてくる。

例えば街行く車の中で子どもが看板の文字に興味を持つ。「お母さん、あれ何て読むの？」そんな時、「ちゃんと前を向いてなさい」と言ってしまえばその子の成長は止まってしまう。好奇心の種を潰してしまうんだ。「あれはね月極（つきぎめ）と言って、毎月駐車場のお金を払ってね、と言う意味なの。あなたのお小遣いも月極でしょ（笑）」そんな風に答えてあげればいい。子どもは知識を得る時には、自分の身の回りの事に置き換えて吸収していく。今の

例で言えば「お小遣いは月極」とインプットする事で「なるほどね」と頭に刻まれる。その「なるほどね」を出せるかが大人の勝負の分かれ道になる（笑）

じゃあ、どうやったら「なるほどね」を出せるか、僕が授業で行っている技を教えよう。

まず、前にも説明したようにＷＨＡＴ（何）ＨＯＷ（どうやって）ＷＨＹ（なぜ）をちゃんと分けて教えること。子どもが「あれ、なあに？」と聞くとき、親はＷＨＡＴの部分、つまり「何」と言う答えを教えてあげればいい。例えば子どもが「あのブーブーなぁに？」と聞いた時、「あれはブルドーザーよ」と教える。ＷＨＡＴを教えるわけだ。でも、それだけではすぐにその知識は消えてしまう。そんな時は次の段階、ＨＯＷを教えてあげよう。

「ブルドーザーは先っちょに板が付いてるでしょ。あれを使って土を運ぶの。」

物には必ず使い方がある。どうやって使うのか、使い方を間違うと意味がわからなくなったり、大事故を引き起こす可能性もある。だから子どもは成長する過程で、このＨＯＷの部分、つまりどうやってそれが使われるのかまで知るといいんだ。より詳しく知る事で興味も湧くしね。ここまでが大人が教えてあげられる部分だと思う。

でも、もう一つ先まで踏み込むと勉強が大好きになる子どもが育つんだ。それがＷＨＹ，なぜの部分だ。

「なんでブルドーザーはブルドーザーっていうの？」
これは厳しい（笑）日常生活していればあまり関係の無い知識だから、大人と言えども知らなくて当然だ。でもそんな時「そんなの知らないわよ。つまんないことばかり言ってないで勉強しなさい」と言ってしまえば、やはりその子の成長はそこで止まってしまう。
「じゃあ一緒に調べてみようか。そういう時は百科事典を使うといいんだよ。ほら、ここに書いてある。へぇー。ブルドーザーのブルは牛、ドーザーは眠るって言う意味なんだって。つまりブルドーザーという機械が開発されてから、それまで牛さんがやっていた仕事がなくなっちゃって牛さん達は暇になっちゃったのね（笑）日本でも昔、牛に車を引かせる牛車と言うのがあったけど、車ができたおかげで牛さんの仕事はなくなっちゃったね。じゃあ車もブルドーザーかな（笑）」
　そんな話が出来ている家は、自然と勉強ができる。子どもが色んな事を知っていて、さらに広い世界を知ろうという好奇心に満ちている。僕が今まで見てきた生徒の中にもそういう家がいくつもあった。そしてそういう生徒達は決まって成績も良かった。当然といえば当然だけど、ちゃんと物事の本質を知っているから、テストでその知識を確認されてもちゃんと答えることができるんだ。

また、ちゃんとＷＨＹまでわかってる子どもは自立も早い。「なぜ」を自分に問いかけながら進むべき道を自分で決めるからだ。自分の道を人任せにせず、誰かがやりなさいと言う事に対して「なぜ？」と納得して行うことによって効果は最大限に上がる。

勉強の方法で使ったＷＨＡＴ、ＨＯＷ、ＷＨＹは勉強を教える時にも使えるって事がわかったかな。

子どもを育てると言う点では、今説明した方法論の他にも大事な要素がある。それは「自分自身が大人になっている」と言うことだ。

子どもと言うのは「サポートや保護が必要な存在」、大人は「自分の力でそれが出来る存在」だ。自分で出来ないもの、誰かの助けを借りなければ出来ないうちは人に何かを教えることは出来ない。友達に数学を教える時を想像してごらん。「えっと、確か先生はここをこうやって、かけて、足して、あれ？引くんだっけ？」自分自身もよく分かっていなければ内容を説明するのは難しいでしょ。だから勉強はちゃんと分かるまでやらないといけないんだ。正に友達に教えられるくらいに、ね。

勉強だけならその部分だけできれば教えられる。でも、親と言うのはそうはいかない。生

活習慣から人付き合い、もちろん勉強も、全ての面を育てていかなければならない。だから親になる場合、親自身がまず大人になっていなければならないんだ。

子どもはいつから大人になるのだろう？

日本では奈良時代以降、１２歳から１６歳の男の子が元服という今で言う成人式を経て大人とみなされた。大人になれば家臣をあてがわれ、その命を任される。戦いに負けたときは責任を取って自らの命を差し出す。古代において大人になるとは誰かの命を引き受け、自らの命を差し出す決意をすることだった。

平和になった今の世の中ではそんな命の決意をする必要はなくなった。でも、本当にそうだろうか？大人の仕事には必ず責任が付きまとう。もし僕が授業でウソを教えて、そのせいで生徒が授業で大恥をかいて、それを苦に自殺しちゃったとする。その子の遺書には「先生がウソを教えたせいで」と書かれていた。（泣）まぁ滅多にそんなことは無いだろうけど（本当にあったらコワイな）、そんなことがないように僕はずっと責任感をもって仕事をする。他のどんな仕事もそうだ。食品メーカーがうっかり薬品を混ぜてしまえば、食べた人が死んでしまうかもしれない。洋服の会社が服に針を刺したままだったら、着た人に刺さって死んでしまうかもしれない。警察官が仕事をサボっていたら、その間に誰かが犯罪によって死んで

しまうかもしれない。仕事を任されると言うことは、昔も今も誰かの命を預かること、それくらいの気持ちを持って取り組むものだと思う。

だからそうやって社会に出て、自らの足で立った大人にこそ、子どもを生んで親になる資格が与えられるんだ。子どもと言う自分とは違う命を保護し、育てていく責任は親にある。まさに自分の子どもの命を預かるわけだ。その決意が無ければ親になってはいけない。

今の世の中を見ると、子どもが欲しくても体の問題や、国の政策で子どもが生めないで悩んでいる人がいる。その一方では無責任に子どもを生み、育てられなくなって捨てる人や、自分の感情のはけ口として虐待して殺してしまう人もいる。これは誰もが大人になる、子どもを育てるという決意をしなくなったからだと僕は思う。

あるペットショップでは犬を飼うときに、虐待をしない、途中で捨てないなどの約束を誓う儀式を行うと聞いた。人間と犬を例えるのは悪いかもしれないが、どちらも同じ命だ、命を預かるにはそれなりの決意が必要だということがよくわかるだろう。ましてやペットとは違う自分の子、その責任を取れない人は親になることはできないんだ。

人工授精やクローン技術など、技術の進歩によって今まで難しかったことが簡単にできるようになった。でもその反面、価値も下がってきたように思える。昔は子どもを堕胎する時

には母親も死の危険があった。子どもを生むのも堕胎するのも命がけだったんだ。それ位、困難な経験をして生まれてきた子を誰もが必死で育てた。食べるものが無い時は、自分の分を子どもにあげてでも育てようとした人がたくさんいた。でも、時代が進歩し、色んな事が簡単にできるようになってしまった。携帯電話で知り合い、援助交際で子どもが出来、産婦人科で子どもを堕胎する。まるで「物」のように命が扱われていく。

僕は自分の子が生まれる時、妻と一緒に分娩室に入り、何時間も苦しんでいる妻の手を握りながら、娘が生まれてくる瞬間を見守っていた。必死で赤ちゃんを押し出そうとする妻、ゆっくりと産道を押しのけながら出てくる赤ちゃん、どっちも必死だった。そんな必死な時間を経て、娘は無事に生まれてきた。そして数分経つとそれまでの苦痛がウソのように、娘はすやすやと保育器で眠っていた。それを見て、僕は思わず泣いた。それはまるで命がけの戦いを終えた安らぎの顔を見ているようだった。

僕はその時、命が生まれてくると言うのは感動するものだという事を体感した。どんなに科学が発達しても子どもは母親のお腹の中で育ち、自分の力で生まれてくる。生きようという命の鼓動は何百万年前からずっと同じなんだ。命は尊い。その言葉の意味を僕ははっきりと理解した。

だからそれからは虐待や乳児の置き去りのニュースを聞く度に、胸が痛くなるんだ。だってその子の事が想像できてしまうから。僕の娘と同じように愛されて、育てられていくはずだった命。それが不幸な事にまだ何も始まらないうちに閉じられてしまった悲劇。きっと痛かっただろう。きっと苦しかっただろう。きっと必死で誰かに助けを求めていたはずなのに。誰も助けられずに、命が失われて初めてそれを知ってしまう。何かがおかしい。時代が発達し、幸せが増えていくはずなのに。不幸なことが次々に起こる。

僕はその理由を、誰もが勉強をしなくなった事、ＬＯＶＥ ＯＴＨＥＲＳのために勉強をしなくなった事だと思った。だからこの本を書いた。もう一度何のために学ぶか、何のために生きるか、どうやって命をつむいでいくか、それを一緒に考えようと思って。僕が経験してきた全てを君に託そうと思ったんだ。

君が将来結婚して子どもを授かる時は、自分に親になる資格があるかどうか、君の生涯をかけてその子を育てていく決意があるかどうか自分に問うて欲しい。そしてその決意を持って、君にも立派な親になって欲しい。

2．大人を育てる方法

子どもを育てる、親になる、世の中を次の未来へと託していく。僕は「生きる」という事を中心にこの教育論を書いてきた。子どもが大人になっていく過程で行う勉強や、生きる道を探していく時の学び、そして親になって子どもを育てていく教育、と色々な話をしてきた。

それも全ては、誰もが今の時代を背負って新しい時代を切り開く開拓者であって欲しいから。（もちろん僕自身もそうでありたい）人間はどんな厳しい時代でも、一筋の光さえあればそこに向かって生きていける。諦めずに前に進んでいけるんだ。その光こそ、生まれた時から今まで勉強し、学んできたものだと僕は思う。

勉強をしよう、生きる力を身につけよう。そんな僕の想いを込めて最後に「大人を育てる方法」について説明したいと思う。大人と言うのは、勉強を終えて学んできた事を社会の中で生かしていける人、つまり「自分の力で生きていける存在」だったよね。そんな人をいまさら育てる必要があるのか？と思うだろ。それが大ありなんだ（笑）

今、実は大人達がメチャクチャ勉強している。試しにパソコンや携帯で「セミナー」とか「講習会」と検索してみよう。たくさん出てくるはずだ。会社に入ったり、自分の会社を起

業したりした人でも、「もっともっと成長したい」「もっとやりたい事を実現したい」と思う人は貪欲に知識や技術を習得し、より高度な仕事ができるように訓練している。１回何万円もするセミナーと言う勉強会に出席したり、〇〇講座を受講して資格を取得したりしながら、それを生かして何百万円も何千万円も手にしている。（それだけのお金を稼ぐと言うことは、それだけ多くの人の喜ぶ事をしているということだ。）

大人にとっては、ただ毎日同じ仕事をしているだけでもとりあえずは生きていける。多くを望まなければね。でも、あれが欲しい、これがしたい、そう思ったら自分のできる事を拡大していかなければならない。それがたとえ自分のためのアクセサリーが欲しい、車がほしいと言うものであっても、家族が欲しい、子どものために使うお金がほしい、世の中の困っている人を助けたいという他人のためのものであってもね。だから大人になっても学習はずっと続いていくんだ。

じゃあ、そんな大人を育てるにはどうしたらいいだろうか。大人は子どもと違って基礎的な生活習慣や、仕事をするのに耐えられる基礎学力は身に付いている。（付いていない人も多いけど）だからそこからさらに学ぶためには、明確な目的が必要になる。これを「ゴールか

らのアプローチ」という。目標であるゴールを定めそこから「今」を考えていく。例えばこんな風に考えていく。

Q. 君は今、何がしたいのか？
A. お金を稼ぎたいです。
Q. 何のためにお金が欲しいのか？
A. 車を買うためのお金がほしいんです。
Q. いくら必要なのか？
A. １００万円です。今の所、貯金はゼロなんで（泣）
Q. その１００万円をどうやって作るのか？
A. 毎月のお給料から５万円ずつ貯めます。
Q. それだと２０ヵ月後に貯まる事になるけどそれでいいのか？
A. もっと早く稼ぎたいです。今度の夏は彼女作ってドライブしたいし。
Q. じゃあどうやったらもっとお給料が増えるのか？
A. 業績を上げることです。この前同期の山田は特別ボーナスもらってたし。

Q．どうやったら業績が上がるのか？

A．山田はめっちゃ商品の勉強してました。休みの日とかも展示会に行って商品研究してたし、お得意さん達ともよく打ち合わせしてるし。そっか！俺も、もっと自分の会社の商品の事を研究して、お客さんがどういうものを求めているのかを分かってから営業すればいいのか。そしたら、営業成績も上がって、ボーナスももらえて、車も買える！よし、これから勉強するぞー！！！

と、これは例だけど、こんな風に目標（ゴール）から「なぜ？」「どうやって？」を掘り下げていく事によって、目標と現在地の道筋が明確になり、「今」何をすべきかが見えてくるんだ。セミナーなどでは「コーチング」なんて呼ばれているけど、実はこれは受験などの勉強でも同じ。合格と言うゴールを定めて、そのために何が必要なのかを考え、今何をすべきかが見えてくれば、自ずと努力するようになるよ。僕が受け持つ生徒達で一番多いのが「何から始めたらいいのか分からない」「勉強が全部分からない」という悩みだ。だから僕は生徒達に目標までにやるべき事（道程）を示してあげて、その中で今その子がいる位置を教えてあげる。そして、あと何をどれだけやればゴールに着くかを教えてあげるんだ。深い森の中をうろう

ろさまよっているより、頂上が見えている山を登る方が気が楽だろ？（笑）そんな頂上への道筋を示す事が、大人を育てる一番効果的な方法だと僕は思う。

また、自分で自分に「なぜ？」「どうやって？」と質問を繰り返す事は、物事を深く掘り下げ、本質を理解する事につながる。何も考えないで適当にやるより、あれこれ考えて、足りない部分を補強して取り組んだ方が、結果はよくなるに決まってる。これも勉強と同じだね。考える過程では、他人と自分を比較したり、本などを読んで学習したり、実際に試してみて失敗から学んだり、まさに「生きた勉強」をしているんだ。だから実は子どもも大人も、勉強すると言う事に関してはレベルの差はあれど、やってることは同じなんだね。だから今君が勉強したくない子どもだとしたら、将来もきっと勉強したくない大人になってしまうんだよ（泣）この僕の教育論を読んで少しでも、勉強しなきゃ、勉強しよう！勉強したい！！と思ってくれたら僕はうれしい。

終わりに

僕の中学からの親友でSというヤツがいるんだけど、Sは中学の頃、まったくといっていい程勉強しなかった。夏休みの宿題だって僕が代わりにやってやったくらいだ（笑）彼はずっと「勉強は嫌いだ」と言い、「勉強したって何の役にも立たない」と言っていた。

でも、そんな彼が変わった。お互い社会人になり、しばらくはなかなか会えなかったが、三十歳を目前に控えた頃、僕たちは久しぶりに会った。十年ぶりに見る彼はビシッとスーツで身を固め、高級車に乗り、僕を高そうなバーに連れて行ってくれた。今はあるケーブルテレビの会社で重要なポストについているという。

僕と彼はお互いにこの十年間の事を報告しあった。彼は高校を卒業後、今の会社の下請け会社に入り、そこで始めて学習を開始したと言った。今までほとんど勉強をしてこなかった彼は、この道で生きていくためにはどうしたらいいかを必死で考え、必要な事を学んでいったそうだ。たくさん本を読み、現場でやってみる。うまくいかないこともたくさんあったと言う。お客さんともめてケンカになったこともあったそうだ。そうやって試行錯誤しながら、彼は本当の学びをしていった。その努力は並大抵ではなかっただろう。彼の会社は大手で大卒の社員もゴロゴロいる。学歴も持っている知識も全然違う世界。その中で、彼は「実力で」

出世していった。そんな彼が僕に言う。
「やっぱり、昔もっと勉強しておけばよかったよ。」
学校で基礎を入れておけば、今がどんなに楽だっただろう、と彼は言った。彼は成人して、始めて数学や英語の教科書を読み始めたそうだ。
もう一人友人を紹介しよう。Ｉは小学生の頃からずっとサッカーをしていて、中学、高校とクラブチームに入り、サッカーで身を立てようとしていた。
そんな彼がある時、足を怪我してしまった。治療を続けながらサッカーを続けていたものの、終にドクターストップがかかり、彼のサッカーの夢は断たれてしまった。
彼は自暴自棄になった。今までサッカーだけを考えて生きてきた人間が、その夢を奪われてしまったんだ。その苦しみは想像を絶する物だっただろう。
でも、彼は変わった。通っていた整骨院の先生の薦めで自分と同じようにスポーツを志す後輩に、自分と同じような苦しみが訪れることがないように、体をケアしながら夢をサポートする道を見つけたんだ。彼はそこで初めて「勉強」をした。自分が上達するために、ではなく、誰かを助けるために彼は必死に勉強した。そして柔道整復士の資格を取り、今は整骨院の院長にまでなった。

彼の医院には患者さんが後を絶たない。施術の腕前はもちろんだが、「同じ痛みを与えたくない」と言う彼の想いが患者さんの心までもケアしているからだ。

彼は勉強を始めた事で大事なものを手に入れた。誰かのために頑張る事。誰かと協力して行動する事。そうやってＬＯＶＥ　ＯＴＨＥＲＳを実現する道を歩み始めたんだ。

決して勉強が得意だったとは思っていないこの二人は、ある時期、勉強の必要性を感じて猛勉強した事で大きな成功を手にした。勉強が学習の基礎であり、避けては通れないものだと僕が言う理由はここにある。学校の勉強をちゃんとしておけば、いつか何かの道で学習を始めようという時に必ず役に立つ。勉強だけでお金が稼げるほど世の中は甘くないが、勉強の上に学習を重ねてできた「知恵」は、人が生きていく大きな武器となる。さらには国を動かす力となる。そして世界を動かす力にだってなるんだ。だから人は学習する。だから親や先生は君達に「勉強しなさい」って言うんだ。（ここまでちゃんと意味を説明して、勉強しろと言ってる人は少ないけど）

学習は勉強と違って自分から始めるものだから、誰からも強制されることはない。君のお父さんは、誰かに言われて会社の仕事を勉強したりはしないだろう？君のお母さんは、誰かに言われて料理の勉強をしたりはしなかったはずだ。みんな社会に出てから、生活のため、

お給料のため、家族のため、夢のために始めていったんだ。それぞれが「生きていくため」に自ら学んでいるんだ。そうやって学んで磨いた「知恵」という武器は、人が世の中で生きていく手段となる。だからこそ、僕も君に言うよ。君達が生きていくために、いつかできる君の夢を実現してもらうために。

思いっきり楽しく、思いっきり本気で、勉強しなさい！

長い長い教育論に付き合ってくれてどうもありがとう（笑）

これから僕はこの教育論で説明したように、本質を学べる、しかも面白い教科書を作って、本当の教育を行う学校を作っていこうと思っている。いつか君とそんな授業ができたらいいね！その日までぜひぜひ勉強しておいてくれ。

なかよし学園校長　中村雄一